No.177
公民館だより
令和5年3月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

庄内由良親善交流訪問団を迎えて

由良地区公民館長　千坂幸雄

令和４年11月６日から11月８日まで庄内由良から14名の皆様に丹後由良（宮津市）に親善訪問していただきました。

丹後由良と庄内由良との交流のいきさつについては公民館だより第１７６号の飯澤登志朗様の記事をもう一度ご覧ください。

公民館はこの親善交流の協力団体としてかかわったことを中心に、私の感想を述べさせていただきます。その他のことは主催である自治連合会にお願いします。

11月６日（日）由良地区文化祭で庄内由良の皆様を迎えました。玄関に歓迎の看板、ステージに歓迎の横幕（飯澤登志朗様作）座席の準備、庄内由良との交流展、蜂子皇子紙芝居の準備をして迎えました。午後３時前に到着し歓迎式を行いました。

席についていただいた後、挨拶を中島武文府会議員、濱本喜彦宮津市由良自治連合会長、榊原健一鶴岡市由良自治会長にしていただきました。その後、蜂子皇子紙芝居を見ていただきました。紙芝居が終わってから榊原自治会長に「最後に出てきた唄はいつごろから唄われているのか」と聞かれ、答えることができませんでした。わかる方がおられたら教えてください。

このような唄です。

庄内の
由良に行きたし
丹後から
蜂子皇子の
船出のように
庄内の
由良から来たか
海つばめ
丹後由良の戸
めぐる年月

丹後由良からの出席者は自治会長、由良の歴史をさぐる会、今までの交流で縁のある方約20名でした。

ホテル＆リゾーツ京都宮津に宿泊していただき、７日は宮津市長表敬訪問と宮津・伊根観光でした。７日は自治連会長と自治会長で参加できる方、そして私が参加させていただきました。

特に印象に残ったのは夜の食事会でのことです。みなさんお酒が強いのです。私と同じくらいの年の方達ですが、私が若い時と同じくらい飲まれました。そして、話好きで自分や皆さんの生活について多く聞かせていただきました。庄内由良の多くの方達は魚を獲ったり、船を操ったり、船の機械関係に携わったりと海の仕事をしておられます。こんな話を聞きながら楽しいひと時を過ごしました。私は車を運転して帰宅しなければならなかったため、お酒が飲めず、残念でした。

３年後、庄内由良訪問の時には是非参加して山形県のおいしいお酒をよばれたく思います。

榊原自治会長から館長あてにお礼文をいただきましたので、一部分を紹介いたします。

「帰りには蜂子皇子碑前で大勢の皆さんからお見送りいただき、特産のオリーブやみかんなど沢山お土産まで頂戴いたしまして、感謝申し上げます。次回丹後由良の皆様の庄内へのご来訪を心からお待ち申し上げております」

行事報告

主事　山下まさ代

スポーツを楽しむニュースポーツ

実施日　10月16日（日）
参加者　33名
（内　子ども11名
推進委員さん4名）

子どもも高齢者も楽しめるニュースポーツ「ファミリーバトミントンとユニボッチャ」を行いました。3歳から89歳の参加者全員が推進委員さんの指導の下、約2時間を楽しく過ごしました。

推進委員さんから説明をうける参加者

小学生低学年では難しいかなと思ったファミリーバトミントンでしたが、「楽しかった。特にファミリーバトミントンが！」と感想を言ってくれました。

今後も年齢に関係なく、たくさんの方が楽しめる事業を考えていきたいと思います。

由良地区文化祭

実施日　11月6日（日）
場所　はまの子体育館
来館者　約200名

3年ぶりの開催となりましたが、まだまだ新型コロナが心配されるため食べ物などは取り扱わずに作品展示を中心に実施しました。今まで里センターが会場でしたが、より広いワンフロアーの「はまの子体育館」で初めて開催しました。

【出展作品】
栗田幼稚園児、栗田小学校児童、栗田中学校生徒の作品、生け花（池坊・嵯峨御流）計10点、焼き物　宮津焼き13点、写真（カメラクラブ）27点、書道（習字教室・田中氏）計20点、吊り飾り（山口氏）20点以上、特別展として「由良小学校閉校10年目記念展」そして、今年は4年ぶりに庄内由良から親善交流訪問が実施されるということで「親善交流訪問記念展」を設置。

【物品販売】
手芸作品等の販売（はまなす苑・由利氏）、点字用紙を再利用した小袋販売（由良オリーブを育てる会）

広い会場をいっぱいに埋めていただきました。

また、ステージでは10年前の由良小学校の写真スライドショーや奉納太鼓のビデオ上映、そして「ライリッシュオカリナみかんの花」の皆さんにオカリナ演奏をしていただきました。特別にお願いして「由良小学校校歌」も演奏していただき、来場者みんなで口ずさみました。

「景品コーナー」を初めて設け、来場者にくじを引いていただき、当たれば由良特産品のオリーブオイルや青みかんサイダー、オリーブティーなどをプレゼント。また、全員に箱ティシュペーパーを持って帰っていただきました。

それぞれで活動されている地域の方の文化的な取組がまだまだあると思われます。そういった方たちの力を借りて参加型文化祭の実施で由良地区全体が盛り上がればと思います。

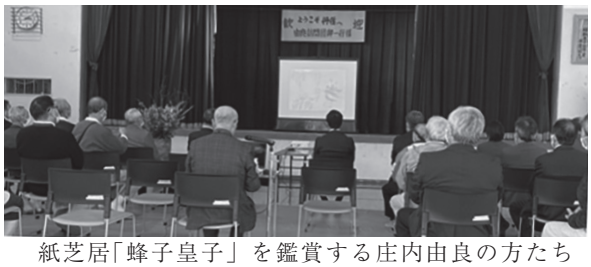
購入した
展示パネル使用

由良小学校閉校１０年目記念展

昭和２７年から６０年間
発行された文集“はまの子”
多くの方が思わず手に
取りました

庄内由良より親善交流訪問記念展

濱本自治連合会長　あいさつ



紙芝居「蜂子皇子」を鑑賞する庄内由良の方たち

グラウンドゴルフ大会（団体戦）

実施日　11月13日（日）
参加者　35名（内小学生3名）

年度当初の計画にはなかったが、体育部会で相談し実施することとなりました。
参加チーム
・由良オリーブを育てる会
・由良松寿会
・さくらちゃん
・ミマの会とお友達
・Mori to Taniguti
・ぎんなん

計6チームで和気あいあいと楽しくゲームができました。はじめは雨が心配で一周りで終了しようと考えていましたが、参加者の希望と天候を見て予定通り二周りできてよかったです。

今年は二家族でチーム（小学生と親）をつくり参加してくれたチームがありました。苦戦していた小学生も後半ではホールインワンをし、拍手喝采。小学生が大会を盛り上げてくれました。次年度は、さらにファミリーで参加するチームが増えることを願います。

結果は次のとおり。
優勝「由良オリーブを育てる会」
準優勝「ミマの会とお友達」
3位「ぎんなん」
ホールインワン　3名

七曲八峠（古道）ウォーキング

実施日　11月27日（日）
参加者　21名
（内　由良地区10名）

今年も栗田地区公民館との共催事業（3回目）。丹後由良駅で合流し、21名で出発しました。

40分程歩いたところに壊れた「不動明王像」を発見。できるだけ修復をしました。

不動明王像　修復作業中

昨年引き起こした「宮津ヨリ壱里三拾三町三拾間」の道標の無事を確認し、さらに竹やぶや落ち葉で滑りやすくなった道なき道を前進し、予定通り帰路につきました。

一列になって竹藪の中を前進

子ども料理教室（餅つき）

実施日　12月18日（日）
参加者　36名（内子ども20名）

年度当初の計画にはなかったが、由良地区公民館と由良子供会連絡協議会との共催で3年ぶりに実施。

一人ひとりが餅つきを体験し、子ども達の手で丸めて、ぜんざいにしてご馳走になりました。

自分でついて丸めた餅の味は格別です。スーパーに行けば何でも手に入る時代ですが、昔ながらの作り方も伝えつつ、自分で作る喜びやおいしさを知り、食に関心をもつ子ども達になってほしいと思います。

食生活改善推進員さんには準備から当日の作業まで大変お世話になりありがとうございました。

（12、13ページに関係記事）

卓球教室

1回目実施日　1月21日（土）
　参加者　7名
2回目実施日　2月4日（土）
　参加者　7名

今年も冬場の健康づくりの一環として実施。3月25日までの計8回を予定しています。

1回目は、初めに準備体操をしてから、2台の卓球台に分かれ乱打。体が慣れるまではなかなか続かなったが、徐々に勘を取り戻され楽しい時間を過ごすことができました。

2回目は少しメンバーの変更がありましたが、楽しく、良い汗をかきました。

由良ヶ岳山の案内所と登山証明書の発行

平成20年（２００８年）に府立大の学生や地域の方たちの協力で「由良ヶ岳山の案内所」が完成しました。そこには登山証明書とアンケート箱、由良散策のしおり、登山行程表などが置いてあります。年間の登山者数や登山者の意見、感想等を知る上で重要であり、また登山者の休憩所として活用されています。（公民館だより１３４号参照）

登山証明書の発行枚数は、山の案内所が完成した翌年平成21年は１０１０枚。（1月から12月までの一年間の発行枚数）少しずつ減ってきて、令和4年は３１７枚でした。案内所の中に証明書があることを知らなかったり、数回登山されている方で持ち帰っていなかったり、漆原方面からの登山の方などで実際はもっと多くの方が登っておられると思います。

登山者の声（一部抜粋）

3月12日　京丹後市より
良い天気でよかったです。頂上に1ｍの雪がありました。

～～～～～～

4月24日
初めて来ました。
5号目の林部分の案内がよくわからず迷った。初心者にもよくわかるように標示してほしいです。
景色は最高！

～～～～～～

5月2日　吹田市より
母と2人で登ります。
途中で雨が降ったり晴れたりしましたが有意義な登山でした。登山道も整備されていて良かったです。

6月25日
丹鉄さんの艦これコラボ車両「由良号」を頂上から見たくて登りました。天気も良くバッチリ見れました！　勝利です！

～～～～～～

8月12日　山梨県河口湖町より
ステキな景色が見られました

～～～～～～

12月9日　大阪府富田林市より
山頂からの宮津の海がきれいでした。原発がなければもっと良いのに！

由良ヶ岳は「丹後富士」とも言われ、関西百名山にも選ばれています。ぜひ、山頂からの絶景を満喫してください。

（栗田学院）学校運営協議会と協働して

栗田小学校　教頭　香山　美知代

「次は、何ができるかな?」と、ワクワクしながら学校運営協議会の皆様と協働しているところです。地域コーディネーター様には、子ども達の学習支援として、ボランティアの方の募集、学習サポート等をお世話になっています。いつも、栗田学院の子ども達のためにご協力をいただき、感謝しております。今回は、学校運営協議会の皆様との主な協働活動について、ご紹介いたします。

①読み聞かせ(月二回)

心温まる話、思わず笑ってしまう話等の読み聞かせの時間を、子ども達は、毎回、とても楽しみにしています！

②図書室の整備

毎週木曜日に、本の整理、新刊コーナーの入れ替え、季節の飾り付け、塗り絵やクイズ等を準備してくださっています!

図書室に行く子どもが増えました!

年末の大掃除で、窓ガラスまでピカピカになりました!

③地域とのコーディネート

地域コーディネーター様が、学校と地域を繋いでくださり協働活動が広がっています

創作クラブのティッシュケース作り、5年生のナップザック製作では、ボランティアの方に教えていただきました!

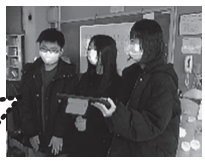
中学校では、浴衣の着付け体験をしました!

陸上大会や駅伝大会に向けた専門的な指導で、自己ベストを更新しました!

3年ぶりの水泳指導のサポートや、SUP(スタンドアップパドルボート)のデモンストレーションを見せていただくなど、大喜びの子ども達でした!

④コラボが実現

PTA本部役員様との合同会議で、PTA会長が校庭除草への協力を依頼されました!



児童会が、冬の遊び(コマ、けん玉等)をお願いしました。当日は、コツを教えてもらったり、一緒に遊んだりして、楽しい取組となりました。園児も招待しました！

図書委員長が朝会で呼びかけ、一緒にクリスマスツリーを飾りました!

この他にも、まだまだ、たくさんお世話になっています。今後も、子ども達が笑顔いっぱいで、豊かに成長できますよう、学校運営協議会の皆様と共に、協働していきます。

庄内由良訪問団をお迎えして

由良自治連合会　会長　濱本喜彦

昨年（令和四年）十一月六～八日にかけて、庄内由良自治会榊原会長以下総勢一四名の訪問団をお迎えして四年ぶりに庄内由良との親交を深めさせていただきました。

その際、改めて感じたことをお書きしたいと思います。

さて今回、訪問団の方々をお迎えするにあたって、由良地区公民館役員皆さまに協力をいただき盛大に訪問団一行の歓迎式展を執り行うことができましたこと、この場をお借りしまして御礼申し上げます。特に、千坂公民館館長が自ら語り手・紙芝居の進行・司会とひとり三役をこなして披露された蜂子皇子物語はたいへん素晴しかったです。

こうして、あらためて蜂子皇子伝説を鑑賞してみて気づいたことがありました。

まず、蜂子皇子とはどのような人物でどのような時代にどのような働きをされた方なのか？これらの疑問に答えてくれているレポートが榊原自治会長様から送られてきたので、庄内由良文化財愛好会の了解を得た上で掲載させていただきます。

以下

庄内由良文化財愛好会

前会長　伊藤吉治　著

『伝承

八乙女と蜂子皇子について』

より

一、時代背景をみる

蜂子皇子の由良八乙女浦上陸は、今より約１４００年前の西暦５９３年（推古１年）のことと云われている。時代は古墳時代から飛鳥時代にかけての大和朝政治（倭国の中心であった邪馬台国の後継政権）確立しかけた時期であって、日本と呼ぶ現在の国名もまだ定まらず、又天皇のことを大王（おおきみ）と呼んでいた頃である。遣隋使として小野妹子らが中国に渡った頃でもある。

一方、庄内地方はまだ弥生時代と云える頃で、月山は別として鳥海山は火山活動が活発に続いており、現在の平野部には数多くの大小の池沼が点在し、農耕は初期の段階であり出羽国も成立していなかった状態であった。

尚、出羽国の創設は７１２年、越後の国の出で端しとの意味づけでの国名であり、その最初の柵は由良の一山越えた場所（山口集落辺り）と云われ、由良の「こうづ」の浜は、その国府津（こうづ）の役割を果たしたことを示す地名であるとの説もある。

二、蜂子皇子とは

皇子の父第32代崇峻天皇（泊瀬部若雀命、父は一大王朝を造った第29代欽明天皇で、その第12子、母は蘇我小姉君でその第２子）が即位後５年目の５９２年（崇峻５年）に天皇擁立者で母方の伯父でもある時の実権者で大臣（おとど）の蘇我馬子と対朝鮮政策や神仏抗争の処理方策で対立したため、馬子の命令を受けた東漢直駒（やまとのあやのあたいこま。第２代征夷大将軍坂上田村麻呂の５代前の祖先）により、11月３日の新嘗祭の日に白昼宮殿内で暗殺されると云う大事件が発生したのである。その上現職の天皇の場合長期間に亘って行われる殯行事もなく、未だに墓陵さえも確定されていない。宮内庁が指定する倉橋岡上陵他推定箇所は３箇所程あるが。

その第１子が峰子皇子であり、この非常事態のなか、従兄の聖徳太子や父帝を支援していた有

力渡来族の秦（はた）氏などの助力を得て、皇居倉橋紫垣宮を脱出し、本津川、淀川を舟で北上して、丹波の国由良川の河口に辿り着いたのである。

そしてこの河口の由良浜から新天地を求め半ば風と潮に委ねた船旅に出発することになる。丹波地方は穴穂部の乱の際、叔母の間人皇女とその子の聖徳太子幼児期の前例があり、又逃亡などの場合ほとんど北を目指しているのは日本人の特性と云うのであろう。尚、皇子の母は大伴の小手古姫で、妹に錦代皇女が一人いるが消息不明となる。但し、母については福島県内にゆかりの地があり、皇子崇拝者が多く訪れて来ている。

尚、丹後の国誕生は後年である。

三、八乙女が八乙女浦に招く

隣村三瀬との間の葉山（１５３cm）の海側一帯を古くから八乙女浦と呼んで来ている。高さ百米級の断崖絶壁と海中に散在する奇岩巨岩群のなかに、巨大にして神秘的な洞窟が最近迄３カ所程あり、古くからアミニズム（自然崇拝宗教）の聖地であったと思われる。この折、皇子一行が洋上から眺めた荘内地方は、鳥海山は現在よりかなり低かったものの、東方に輝く月山はすでに現在の形容をなしており、平野部南端の八乙女浦を見れば、神秘極まる岩室辺りに八乙女が舞い招き、しかも天然の良港もあるというこの由良海岸へ上陸となるのである。

具体的舟着場所は通称鴨助間（かもすけま）で、現在の漁港の西の部分であったと云う。江戸時代に北前船がよく寄港した所でもある。

そして皇子は間もなくこの岩室の一つ権現穴に籠り仏法による修行に入ったのである。権現（ごんげん）とは、人間が修行によって神格化し、ついには仏身となる過程のなかで、此の世に神として現れる存在のことであって、由良の場合、白山島に祀られる白山妙理（きくり）大権現を通称権現様と呼び、本地仏十一面観音が現世に神として現れたものであるとしている。権現穴はこの権現を祀る場所であると共に人々が権現になることを求めて修行に篭った岸室なのである。尚、八乙女とは弥乙女のことで、由良比売命と同じ女神で更には上記の白山妙理姫命とも同じ存在である説がある。少なくとも浜の八人の少女達とするのは誤りと云うものであろう。又、由良の地名は、この時の皇子一行がその船出をした所に因んで名付けたとも云われてきているが、当時すでに現造船所付近に戸数５戸からなる泊（とまり）と呼ぶ集落があったので、この場合改称と云うことになったかもしれない。その場所は現在史蹟となっている。

尚、由良（ゆら）とは、古代朝鮮語系での湊（みなと、ツングース語系の泊も同じ意味）と同じ語意であり、全国に同義の地名が12カ所程現存している。和歌山、兵庫、鳥取と京都（宮津）の由良がよく知られている。因みに、百人一首の”由良の門を渡る舟人梶をたえ行方も知らぬ恋いの路かな“の由良についての和歌山と京都の争いは今も続いている。

四、山岳宗教の拠点 出羽三山を開く

八乙女の岩室権現穴で暫く修行を重ねた皇子は上陸時に眺めて心打たれた霊峰月山に瑞光の立ち昇るのを見て、先ずそのふもとの羽黒山へ向かったのである。そして山中の阿古屋などで更に修行し、修験道（直接のルーツは朝鮮半島）で究めて吾が国山岳宗教の拠点出羽三山（現在は月山、湯殿山、羽黒山のこととなっている。尚、大和三山や熊野三山と共に有名三山の代表格である）を開創するのである。そして６４１年（舒明14年）に

同山内で入定し、開山堂に祀られている。

尚、由良からの道案内は何処にもある伝承と同じく三本足のカラスが行ったと云われている。所謂天狗（てんぐ）のことを云っているのかもしれない。

ところで、自然の洞窟などに籠もって修行するのは仏教特有のことであつて、皇子より時代は新しくなるが、弘法大師空海も阿波の国の室戸の海岸の岩室に籠もって悟りを開いたとされており、ここ八乙女洞窟にも皇子のみならず、妙達上人や弁寛僧都などこの地方の著名僧などが籠もったとされている。

尚、皇子に対しては江戸時代になって羽黒山の開祖として能除太子と呼称、１８２３年（文政６年）に正一位照見大菩薩の称号を授け、更に１８７３年（明治６年）に新政府の配意により第32代崇峻天皇の第一皇子として皇族と正式に認定され、蜂子神社が建立、その祭神となると共に陵墓も造られた。

五、由良と羽黒山との結びつき

由良地区では、１９９３年（平成５年）にこれらの伝承に基づいて開村１４００年祭を行うと共に、八乙女の内の２子（恵姫、美鳳）の像をシンボルとして白山島の眼前の海岸に建立した。

尚、白山島は明治以前には大島（おしま）と呼ばれていたものであるが、往時は大島から八乙女浦一帯が全て神域であって総称して八乙女浦と呼んでいたようである。

又、八乙女岩室群特に権現穴は羽黒修験のメッカと云うことで、当初の75日間の峰中（山伏修行のメインで入峰とも云う）その後30日間となり、現在は更に短縮、女子も参加できる。この岩室前を起点とし上部の鳴岩前広場で整列して出発したものだったと云われている。

更には羽黒山に仕える神子（みこ）も社家（神職）も由良から参籠する八乙女（女子）と八童子（男子）を以て始まったとされているのである。

又、積善院権大僧都法印（神林家、手向華蔵院出身）が江戸の初期には羽黒山から派遣されていて、大島の白山権現と八乙女権現の管掌に当たっている。

現在、この「八乙女」は羽黒神の誕生地更には羽黒山の奥の院と再認識され羽黒山との結びつきが改めて強化されている。目下進行中のふれあい整備事業が完成する頃には「海の羽黒」としても大きくクローズアップされることとなろう。ただ残念のことには本拠であり最大の岩室権現穴が、１８９４年（明治27年）庄内大地震のため入口部分が陥没している。この中は大変に広く奥は羽黒山頂迄続いていると信じられているのだが。

尚、１４９２～１５００年間（明応年間）に、この岩室を拝所としての八呼止女神社が、新規建立がされているが、祭神は勿論由良姫命即ち八乙女となっている。

上述の羽黒山入峰修行が此処を起点として始まった時期に当たる。

以上のレポートの中に面白い点が二点あります。

一点目は、蜂子皇子が庄内由良の八乙女浦で八人の天女の舞に導かれ上陸したとの伝説ですが、この八乙女伝説こそ、丹後に古くから伝わる伝説であり、六千年の歴史を誇る丹後王国の国おこしの場面に登場する八人の天女達のことであると考えられます。

このことは、何故皇子一行が南ではなく北の地を目指したのか？この疑問もレポートにも書かれていたように、大和朝廷がまだ地方の一王国に過ぎなかった頃に丹後王国からさかんに姫君を娶って両国の関係を強力なものとしていたとしたら、つま

り母方のルーツが丹後王国だとしたら南ではなく北、つまり丹後王国の入り口である由良の湊を目指したのが理解できます。実際聖徳太子の母上の間人皇女が間人に一時避難した伝説とも一致します。

そして二点目の興味ある伝説が、蜂子皇子上陸後、八咫烏が羽黒山までの道を案内した伝説です。つまりこの伝説は大和朝廷の伝説神武東征の際に神武天皇を熊野国から大和国への道案内をしたとされる伝説に類似している点です。

つまり、蜂子皇子伝説はそのルーツに丹後王国と大和朝廷の存在が見え隠れする。つまりどちらか片方だけでは、この伝説は成立しなかった。つまり、母方を丹後、父方を大和とそこに生まれてきた蜂子皇子だからこそ、語り継がれてきた伝説であると考えられます。

今回、庄内由良訪問団の方々と親交を深めるにあたってあらためて、その歴史とその関係の深さに感銘を受けた次第であります。

次回は丹後由良から庄内由良への訪問となることになりますが、是非参加させていただき、悠々たる歴史の流れを感じたいと考えます。

蜂子皇子船出碑の前で記念写真

『由良ってこんなもの作れるんだ』Ⅳ

山下　剛敏

雪の少ない冬は、気温以上に寒く感じます。家の周りや車の出入口を、雪かきする回数が少ないのは有り難いですね。ただ、家の中に籠ってしまうと自分で思っているよりも、筋力・体力共に落ちかねません。その点、ウォーキングやジョギングをされる方を、由良の色々な場所でチラホラお見かけします。中には、はまの子グラウンドで遊んでいるお子さんと親御さん、そしてグラウンドゴルフ等に興じる先輩方が、寒い中でも元気に楽しまれる姿もあります。そう考えると由良地区の皆さんは寒い中でも、健康的に過ごされる方も多いように感じます

今回は『キュウリ』についてです。

キュウリも前回のトマト同様、由良の畑でお見かけしやすい野菜に感じます。我が家でも毎年作っていますが、採るタイミングが遅れると、びっくりするほど大きくなり、一本が売り物のキュウリ三本分になる事も。トマトと合わせて作ると、料理が彩りの良い食卓になります。

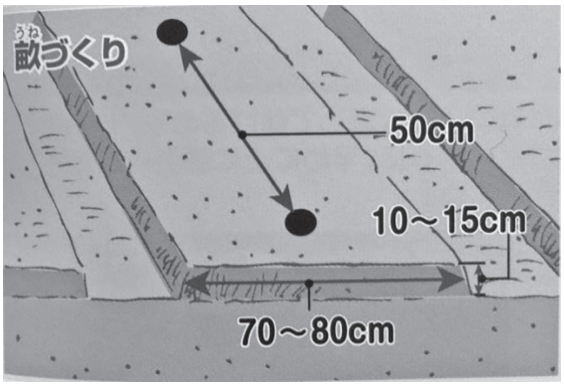
種から育てたり、形の良い物を作るとなると、思った以上に手間が掛かるので、苗を購入しての栽培管理をご紹介します。

①苗以外に揃えるもの

石灰、堆肥（牛ふん・鶏ふんなど）、ワラ又はマルチ、支柱（苗の本数に応じて）、支柱にくくる紐、野菜用化成肥料又は有機肥料。

②土壌を作る

植える面積へ薄っすら土が隠れる程度に石灰（有機石灰だと堆肥も一緒に混ぜれて植付けもすぐにできる）を撒き、その後堆肥も撒いて耕して混ぜます。畝（ウネ）を幅70～80㎝、長さは苗一本に植える箇所から50㎝ほど作る。



③植え付け

前回のトマト同様、苗をポットから土ごと取り出し、その形程度の穴に埋めて、土を軽く被せたら倒れないように周りを抑える。

マルチ使用の場合は、畝を作ったら張っておく。ワラが手に入る場合は植え付けた後に周りに敷いてやる。最後にたっぷりの水をやって下さい。トマト・キュウリは、4月下旬～5月一杯の時期に植え付けが一般的です。その後、支柱を立てて、枝と支柱を8の字結びで、ゆとりを持たせて紐で縛ります。

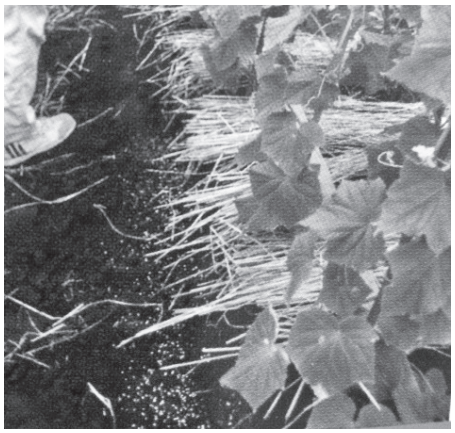
ポイントの一つ、トマトは脇芽でしたが、キュウリは接ぎ木苗を購入の場合、台芽（ダイメ）と言う台木から芽の出る場合があり、それを取ってやる必要があります。

④誘引（ユウイン）

つるが勢いよく伸び始めるので、横や下に向いて行かないよう、早めに支柱の上方に紐で固定し、伸び具合に合わせ、数か所を紐でくくってやります。

⑤追肥

植え付け2週間後から野菜用化成肥料又は有機肥料を、根元から30㎝くらい離して浅く溝を掘り、肥料をまいて土を被せます。6月中旬～7月下旬を目安に、畝の幅近くまでつるや葉が伸びてきた頃、畝の外側に溝を掘り、溝に肥料をまいて土を被せる。



この追肥を、二週間に一度繰り返してやると大きく成長します。

⑥摘芯（テキシン）

この作業は、できれば…という感じです。主軸から横に伸びるつるの葉っぱ二枚より先は、摘み取ってしまう方が良いキュウリに育ち易いです。

⑦収穫

六月からお盆前後までは、どんどん出来ます。サラダは勿論、浅漬け、ぬか漬け、冷やし中華の具材など色々な料理にも使え、体の水分補給にも欠かせない食材です。

曲がってしまうキュウリは、水分不足や肥料不足を表すサインだそうです。そして、極端に曲がっていても味に問題無いですが、気になる場合は一度キュウリを全部採り、肥料と水を与えて下さい。

◎次回は　じゃがいも　です。

協力：京都ファーム彩（舞鶴市）

子供料理教室の開催について

由良子供会連絡協議会　会長　堤　郷介

春色のなごやかな季節、皆様にはご清祥のこととと存じます。

由良地区の皆様には、日頃より由良子供会連絡協議会の活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

昨年末の十二月吉日において、およそ三年振りとなる公民館様主催による子供料理教室が開催されました。

前年度まではコロナウイルスの影響により飲食を共にする行事は感染防止の観点より実施が出来ずにおりましたが、大人、子供問わず各々が感染対策を実施することに加え、幼稚園や学校においても徐々に行事が増え始めていることもあり、公民館長様他皆様方のご協力のもと実施する事が出来ました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

子供料理教室は以前実施していた時は隔年で「餅つき」と「ケーキ作り」を行っておりましたが、コロナ禍により外出を控える事の多かったここ数年の状況を鑑み、また子供たちに「日本の伝統行事」を知ってもらいたいとの思いより、本年度は「餅つき」を選択しました。

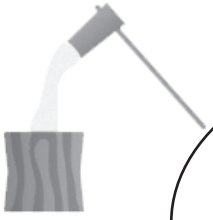
まだコロナの不安が消えない現状でしたが、それでも多くの子ども達、保護者の方々に参加していただき、大変感謝しております。

参加してくれた子ども達の中には初めて餅つきをする子も多かったようです。また、そもそも「餅」がどのように出来るのか知らない子も多かったのではないでしょうか。楽しく年中行事を実施して、かつ知識も得て、とても良い時間が過ごせたのではと自負しております。

来年度は本年度よりさらに多くの行事が開催できる事を願っております。

今日のメニュー
つきたてお餅のぜんざい
大根ツナサラダ
みかん

餅つきの感想



3年　山中　詠太

はじめておもちをついたけど、はじめてついたわりには上手につけてうれしかったです。また、ついてみたいです。

2年　宇都　浩志朗

おもちをはじめてつくってたのしかった。ツナマヨサラダがおいしかった。ぜんざいをたべて、あまくておいしかった。

5年　森　篤都

もちつきは初めてじゃなかったけど、あらためて大変なことがわかった。もちを作るには、たく、つく、こねるなどのいろいろなこうていが必要なこともわかった。そして大変で楽しかった。

4年　中村　泰莉

さいしょは「もちつきできるかな。ふあんだな」と思っていたけど、ついたあとは「めっちゃたのしい！」と思いました。来年もしたいです。

4年　宇都　瑠之助

ぼくは、ひさしぶりにおもちつきをしました。ぼくは、うまくはつけなかったですが、みんなでつくったもちは、おいしかったです。

3年　堤　優生

今日１２月１８日　日曜日午前１０時からもちつきをしました。
さいしょに A グループがついたもちを丸めました。丸めるのはむずかしかったけれどがんばりました。
今度はもちをつきました。剣道でがんばったウデをもちつきではっきできました。
さい後は参加者全員で食べました。
自分でついたもちは
倍おいしかったです。

令和４年度 宮津市立小学校・中学校人権標語優秀作品

ごめんなさい　すぐにいえたら　かっこいい	小学1年生
ちょっとずつ　ちがうからこそ　たのしいよ	小学2年生
「ありがとう」　これがぼくらの　合言葉	小学3年生

由良が光り輝いていた時代（20）

由良の歴史をさぐる会　加藤正一

「庚申講（こうしんこう）」

由良の各地区に残されている庚申講の遺跡について宮津市史に脇地区と上石浦の一件が記載されているが、実は他地区にも存在する。まず庚申講について、平成二十七年度に日本の鬼の博物館春期特別展で得た資料から引用転記します。

日本では庚申信仰は中国の道教で説く三尸（さんし）説を中心に仏教・神道・修験道などに民間のさまざまな信仰や習俗が集合して独自の展開をしました。十五世紀の後半には**「庚申縁起」**がつくられ、これが庚申信仰のよりどころとなり、庚申講が組織され、庚申板碑が造立され始めます。（中略）江戸時代になると、各地で庚申講が結成され、もっとも一般的な講集団となりました。庚申講は村落の全戸または最寄りの有志で組織され、庚申の日に宿に集まり、庚申画像青面金剛などを掲げて真言や般若心経を唱えて祀った後、共同飲食しながら夜を徹して談笑しました。（後略）「世界大百科事典」より引用（塩見行雄氏）

日本では平安時代後期に貴族層に広まり、中世には寺院、武家、近世になって庶民に広がったそうだ。奈良の東大寺には平安後期の作という木造青面金剛が伝わる。

「青面金剛について」

「陀羅尼集経（だらにじっきょう）によると、一身四手、左辺の上手に三股叉（さんこさ）を握り、下手は棒を握る。右辺の上手は掌に一輪を托し、下手は絹索（けんさく）を握る。その身は青色にして大張口、狗牙は上出す。眼の赤いこと血の如くして三眼あり。頂に髑髏（どくろ）を戴き、頭髪は竪に聳えて火焔の色の如し。頂に大蛇をまとう。両脚腕に各側にたれる一竜あり。頭竜は相向かう。其の像の腰に二大赤蛇をまとう。両脚腕上に亦、大赤蛇をまとう。にぎるところの棒上に亦大赤蛇をまとう。虎皮を股にたらす。髑髏の瓔珞（ようらく）像の両脚下に各一鬼・・・」

（参）後のページに図解

「庚申信仰　飯田道夫」

（福知山市談会　大槻　伸氏）

以上（福智山地方の庚申塔　日本の鬼の交流博物館発行図録による）

「由良に於ける庚申行事」

公民館だより第一二七号（二〇〇六年六月）に中西俊夫氏が分かりやすく記述されています。貴重な資料なので要約し転記しますと、道教の十干といって木、火、土、金、水の五行を兄（え）弟（と）に分けたもので、年と日を表すのに使われて居ります。「甲・きのえ」、「乙・きのと」など十干。子・丑などの十二支。これらの組み合わせは全部で六十組になります。これを日または年にすると六十日または六十年となって、六十日また年毎に巡ってくることになる。この六十の組み合わせの内「庚・申かのえさる」の組日を、「庚申（こうしん）の日または「庚申年」としている。

由良では六十日毎に巡ってくる日にはお講が開かれて、講の中では順番があって宿になった家では、前の宿から引き継いだ庚申の青面金剛の軸物を飾る。講中の皆が集まりかけると灯明

をつけ線香を立てて拝み、鉦を叩きながら次のような勤行を唱えます。

オコシンデ　コウシンデ　マイタリ　ソワカ

と庚申の真言をあげます。

次いで年長の者が南無青面金剛童子と何回か唱えてその後、般若心経を唱えて勤行を済ませる。勤行を済ませた後は飲食をしながらその晩は眠らずに翌日の夜明けを待った。けれども夜も十二時を過ぎるとおいおいに解散といったことになっていた。夜も眠らず夜が明けるのを待ったということのおこりは、体の中に三巳（さんし）の悪い虫がすくっていて、庚申の夜に人が眠ると、その人が眠っている内に体から抜け出て天にのぼり（天帝に）その人の悪事を告げて、その人の命を奪うと信じられていたので、この夜眠らないで三巳が体から出ないようにしたというのが庚申待、お日待のおこり。

（庚申さんの軸写真二枚、故大森寅一氏の生存中に借用撮影）とあり、私は確認していないが、掛け軸が存在する。

これからも由良地区に庚申講が行われていた。これらの行事が由良全体で同じように行われたか不明である。なぜなら各地区に庚申関係の遺物が存在する。（後述・写真参照）

「令和五年暦」

令和五年暦を見られた方もみえると思いますが、ちなみに手元にある如意寺の高野山家宝暦では月毎の干支の覧、曹洞宗宝暦、高島暦では一ページの庚申枠を見ると月ごとの庚申日がわかる。（写真参照）

宮津市史別冊に表題庚申塔として脇・稲荷社「庚申供養塔」石浦「青面天」が記載されている。

上石浦地区

中路（日吉）神社境内　鳥居横

右側面に文久三年（一八六三）台座正面「講中」**庚申石柱**

下部に「青面天」刻印

正面上部に左図「日月雲？」

神社の社内に青面天寄進板あり

上石浦にもう一か所**庚申石柱**
墓所下の国道脇・林の中
明治十年十一月

脇地区　庚申供養塔
岩穴稲荷神社境内　国道側
寛保二年（一七四二）、
上部に日月を刻　石柱

下石浦地区
住吉神社境内　参道横
青面金剛石柱

浜野路地区　松原寺内庚申堂
享保八年（一七二三）
宮津市寺社では文化十一年（一八一四）に建てられたとある。

お堂内に**青面金剛像**

小形ながら立派な像

曹洞宗宝暦に於いては令和五年三月三日に庚申祭が行われる。
松原寺にても午後三時から庚申祭が行われる。

宮本地区　如意寺
身代わり地蔵堂内　青面金剛像
由良では最大の青面金剛像

港地区

探したが見つからず地区内の方にお聞きしたが不明。もしかしたら浜野路地区と合同開催していたのかも。

ＮＨＫテレビ画面

庚申の行事（画面に庚申講文字）

供養法会の後、皆で身体健康、息災延命を願っての大数珠繰り如意寺でも行われている大数珠回し（大師講数珠繰り令和五年四月二十一日）も庚申に関係？

曹洞宗宝暦
令和５年
庚申月

福知山市の庚申塔
青面金剛像の見方

※その他、邪鬼を踏むものや蛇が彫られたものもある。

日本の鬼の博物館・春期特別展図録

前号の公民館だより

令和四年一一月　第一七六号で、米屋四郎左衛門家について述べたが、奉納した燈篭を書き落としたので追加しときたい。

栗田地区の住吉神社

奉納和船があり現宮津郷土資料館で展示。

鳥居前の一対の燈篭　向かって左を奉納している。

寛政三年？（一七九一）

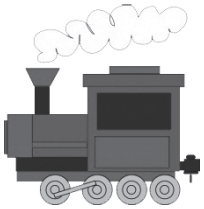
皆さまからの投稿　テーマ“たびだち”

先日、丹鉄を利用したときのことです。団体旅行のお客さんが乗ってこられ、四所駅に停車した時、添乗員さんに「ここって安寿と厨子王の伝説の地ですよね？」と尋ねているのを見かけました。すると添乗員さんは「あぁ、あの伝説は全国各地にありますから」と返答され、横で聞いていた私はビックリ！この人の案内で旅行して大丈夫？と心配になりました。

（チコちゃんに叱られそう‥）

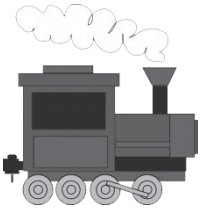
“たびだち”と聞いて思い浮かぶのは卒業式
私にとって卒業ソングは、今も昔も柏原芳恵の「春なのに」です。
主人はEXILEの「道」やな、と言い、息子はレミオロメンの「3月9日」かな、と言います。皆さんはどうでしょう？
ちなみに、この会話の途中で息子に「かしわばらよしえって何者？」とツッコまれました。

（河合奈保子のファンでした）



鉄道に乗って日本縦断の旅をしてみたいです。
その日のうちに行けるところまで列車に揺られ車窓からの風景を眺めながら、地元の人とのふれあいや名物料理を味わい温泉も楽しみたいです。

（カシオペア）



私が中学生の頃、卒業する好きな人から制服の第２ボタンをもらうのが流行っていました。可愛がってくれた部活の先輩のボタンをもらおうと、いそいそ近づくと、ボタンはもうなくて驚きました。
「この人、そんなにモテたか？」と心の中で失礼なことを考えながら「卒業おめでとうございます」と、シレッと挨拶したのを憶えています。

（そんな時代もあったのよ♡）

私が１８歳で由良を離れた時、すごい不安の中、京都行の急行列車に乗った事を思い出します。
誰も知り合いもいない中、ご飯もろくに喉を通りませんでした。
あれから３０年近くたち、今でもつきあいのある友人達ができました。
全国に散らばった友人達といつか集まれる日を楽しみにしています。

（２０期生）

使わなくなった物や、いらなくなった物がいっぱいあります。大型ごみとして処分しようか。皆さまはどうしていますか？
「ただ捨てるのはもったいない」「何かに活用できないか」と思い、捨てる前に一捻り。
①古い洋服が入っていた洋服ダンスを毛布等の寝具入れに　②低テーブルの脚を付け替えて高テーブルに　③古い帯をトイレロールカバーに　④廃棄ネクタイ25本でテーブルセンタークロスに　など。
不要になった物も廃棄する前に、何かに活用できないか、何かに使えないかを考えて、アイデアがうかんだ時はうれしいものです。
本来の役目を終え、新たな役割をもって再出発（たびだち）した物たちです。
色々な活用方法を教えてください。

（m･y より）

子供達の高校卒業式。
わが子はまだ進学先も決まっておらず、進学先によっては、こちらも資金繰りが大変になるかも・・・・と不安がいっぱい。
でも、卒業生のちょっと大人びた顔を見ているとうれしくも思った。
今は社会に出てそれぞれの道を歩んでいる。
いつまでも子供達の幸せを願っていたい。

（みかん）

たびだちで思い出すのは、わが子が大学に入る時です。
「もうすぐ　旅立ってしまうんだな」
「一人暮らし　大丈夫かな」と感傷に浸っていました。
月日は流れ、今は社会人になり奮闘中。
ほどほどに頑張れ‼

（ゴリ）

“強烈なたびだち”わたしの大学入学の時のたびだちです。
いままで実家で１８年間好き放題に暮らしていた生活が一変しました。大学で寮生活の始まりです。
「あぁ花の応援団」だったでしょうか。皆さん憶えておられますか。そんな漫画があったことを。この漫画をそのまま実際の生活にしてしまったような環境に飛び込んでしまったのです。この寮生活を１年間経験して苦労をしましたが、今になってみるとその経験が役に立っているところもあり、今の私を支えていると思えてきます。

（がまんしたなぁさん）

たびだちと聞くと、中学校１年生の時の転校を思い出します。
その当時生まれて初めての転校でしたので、その当時の友人たちと今生の別れのような気がしてポロポロ泣いた思い出があります。たびだちとは少しニュアンスが違いますが、数年後再び転校して、また元の中学校帰ってきて友人たちと再会出来ました。つまり、この時「人間死別しない限り、いつかまた再会できる（やり直せる)」と感じ、今に至ります。
これからたびだつ人たちに伝えたい「いつでも人生やり直せる！いつでも帰っておいでよ！」と。

（ Y.H ）

コロナ禍で人の集まることがむずかしくなった３年間でした。
小さかった姪っ子が、３年の間に結婚、出産し２人の子供の親になり、親元から旅立ちました。
コロナも、もう３年。
来月からは一部をのぞきマスクなしでも　と煖和発表もありました。
もう　コロナ生活からも旅立てるのでしょうか？

高校を卒業し由良を離れ、待ちに待った新生活。
由良に戻ることは無いと思っていたが、しっかり戻ってきました。
「たびだち」よりも「でもどり」。
やっぱり　由良が大好きです。

（　T.N　）

今年度整備された備品

①展示パネル　3枚
文化祭で使用

②提灯一式　60灯
盆踊り用に新調

③やぐら　寄付
盆踊り用

〈編集後記〉

厳しかった冬の寒さも、わずかな陽射しを見ただけで忘れそうになります。
コロナ後の新しい陽光が、暖かく降り注ぐ日が来るのを今か今かと待ちわびています。
今春、進学や就職などで由良を旅立つ方がおられると思います。夢や希望に向けて力強く歩んでほしいと心から祈ると共に、外の世界で身につけた力をいつの日か由良へ還元してほしいなぁとも願っています。
新年度は明るいニュースがたくさん聞けますように。

文化部　川﨑